

平成24年度 学術情報リテラシー教育担当者研修
大阪会場(10.24)東京会場(11.28)

学術情報リテラシー教育 における企画・立案

同志社大学 学習支援・教育開発センター
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井上真琴



本日の内容

学術情報リテラシー教育における 企画力

自学の教育体系に応じた
学術情報リテラシー教育
プログラム



「何が」できるようになればよいのか？

プログラム内容の企画と立案

教育と連携するために「何が」必要か？

教学との連携の接点

どうすれば円滑な実施ができるのか？

運営方法の工夫

ま と め

学術情報リテラシー教育の企画立案力を高めるには、

1. ツール操作にとどまらず、情報源を使う時の「考え方」「読み方」「可用性」等に焦点を当てる。
 2. 「人はどう学ぶのか」=学習科学, 教育工学の理論や知見を学ぶ。
 3. FD活動と高等教育改革の文脈のなかで学術情報リテラシー教育を位置づけることを意識する。
-



教育開発・実践センター
Fder / Instructional Designer

図書館
図書館員

高等教育論の知見
教育方法論の知見

図書館情報学の知見

図書館が提供する
情報資源

教育理論

学習科学

教育工学

教授法

ラーニング・コモンズ

情報リテラシー教育

分類

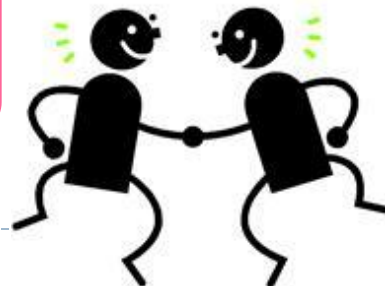
独自のスキル

目録

Team Teachingによるコラボ体制

情報の有効活用
学習成果の引出し方が上手

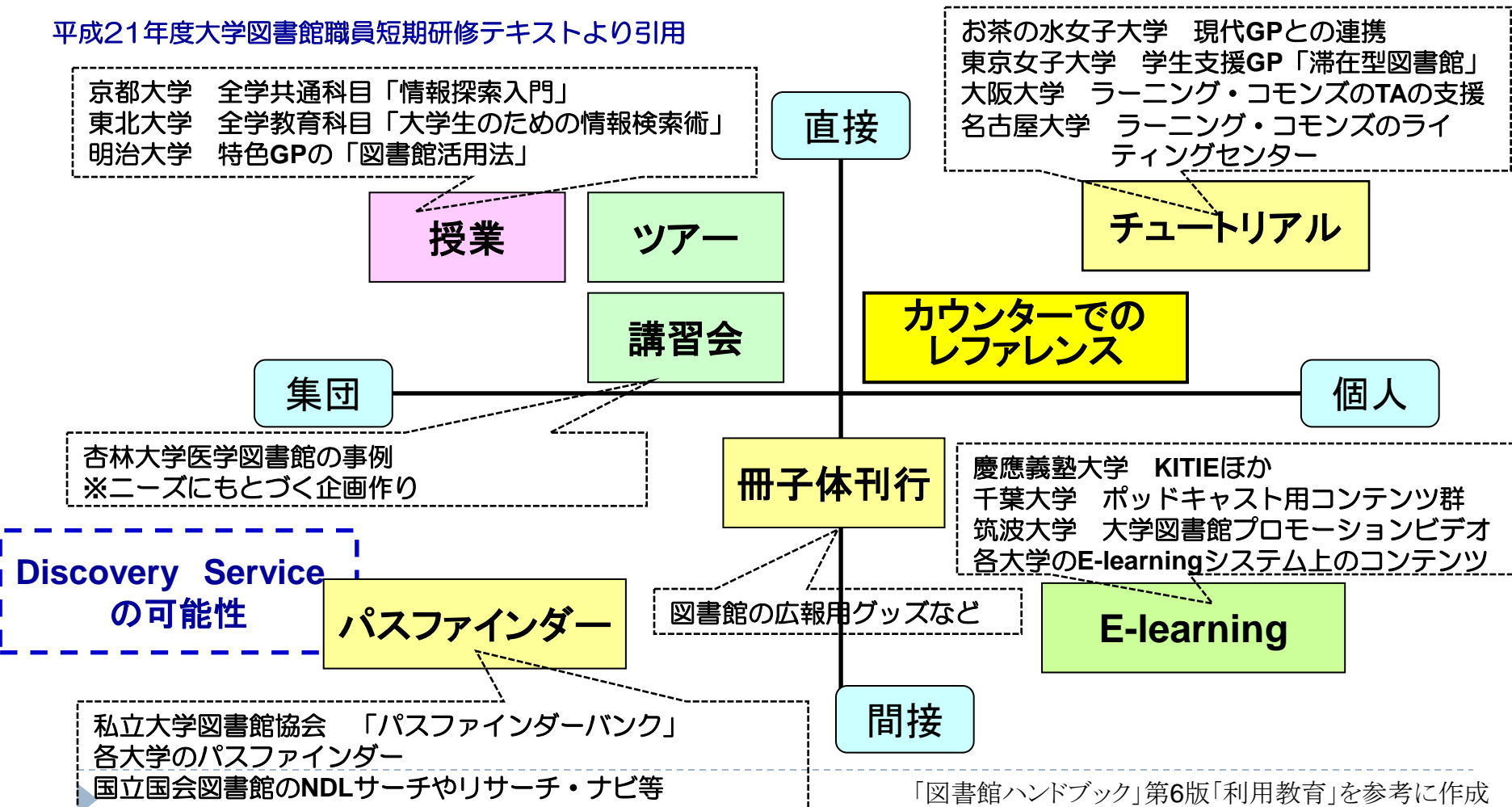
図書館のみ論理では・・・
学術情報リテラシー教育は無理



学術情報リテラシー教育のいろいろ

■ 現在の大学における情報リテラシー: 代表的な実践例

平成21年度大学図書館職員短期研修テキストより引用



情報リテラシー教育の動向と運営の指針

野末俊比古. 研究文献レビュー:情報リテラシー教育:図書館・図書館情報学を取り巻く研究動向. カレントアウェアネス. 2009, No.302. <http://current.ndl.go.jp/ca1703>, (参照 2012-10-13)

日本図書館協会図書館利用教育委員会編. 図書館利用教育ガイドライン合冊版:図書館における情報リテラシー支援サービスのために. 日本図書館協会, 2001, 81p., ISBN: 4820401157

※自学の教育方針に応じて参照する



同志社大学のこれまでの取組み

第1段階：情報源の紹介と検索方法を焦点とする
プログラムの開発と実施

※高額契約データベースの利用促進と財務部からの
批判回避

第2段階：「考え方」「思考の道筋」を重視した実践
的・総合的プログラムの開発と実施

※事例教材の工夫, 検索指導の工夫

《今後の課題》

第3段階：アクティブ・ラーニングの手法を使った
プログラムの開発と実施

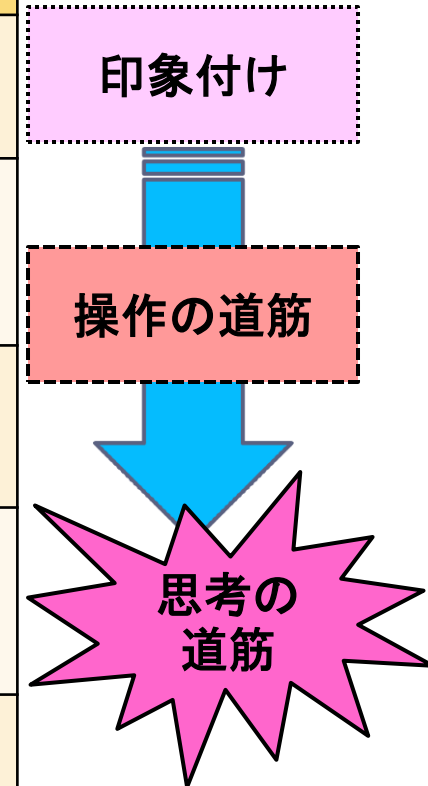
※学習支援の視点を組み込んだ企画・立案



I. プログラム企画・立案の焦点は何か

講習会プログラム「情報探索の技」の体系

	企画・構成 仕様確定	講師
入門・初級(4コース) 役立つ図書館活用術	図書館スタッフ (初年次教育コースと連動)	委託
初級編(4コース) 30分でわかる	図書館スタッフ	図書館スタッフ
初級編 読んでみよう!	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(3コース) 90分でバッチリ	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(5コース) プロが教える	委託	委託



I.プログラム企画・立案の焦点は何か

焦点をどこにおくか？

スキルの種別	印刷体資料	電子化資料 (データベース/フリーサイト)
1.情報源を知る (何があるのか)	<ul style="list-style-type: none">『日本の参考図書』等のガイドブック各種主題別紹介資料書誌・目録	<ul style="list-style-type: none">OPACの存在ポータル参照パスファインダー参照
2.情報源の使い方を知る (どう使うのか)	<ul style="list-style-type: none">凡例読解編集方針/編集形態	<ul style="list-style-type: none">検索方法/検索スキルインデクシング方法各種演算子
3.総合化した情報源利用 (なぜ使うのか,どう組み合わせるのか)	調べ方の「考え方」：メタレベル リサーチの文脈における思考の道筋	

図書館の情報リテラシー教育の限界

- ▶ 教育理論・学習科学が教職協働の共通言語
- ▶ 図書館での情報リテラシー教育の限界
＝「情報を使って、学習成果(アウトカムズ)を出すプロセス全体を指導・支援するサービス」
になっていない。

アクティブラーニングを取り入れた
情報リテラシー教育プログラムの開発が焦点



《情報を主体的に使いこなす力》

(特に図書館・図書館情報学でいう)情報リテラシーとは、情報の探索・収集に関わるスキルが中心となっている(と思われる)。しかし、情報リテラシーは、入手した文献などを読解・分析し、その成果を表現・伝達していく一連の過程にわたるものであり、単なる機器操作にとどまるものでもない(ととらえたい)。まさに、「情報」を活用して、さまざまな「問題」を解決していくための総合的力である(ととらえたい)。

野末俊比古. 「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって. 情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.



II.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

情報リテラシーの定義

情報リテラシーを持っている人は、つまるところ、学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは、情報がどのように構造化されているか、情報をどのように見つけるか、どのように利用すれば他人が自分の成果を撮取して学んでくれるかを知っている。

また、どのような作業や判断においても必要な情報を見つけてることができるので、生涯を通じて学んでいく。

*ALA, Presidential Committee on Information Literacy,
Final Report (1989)*

※Knowing how to learn , Learning how to learn

⇒ 中教審「学士課程教育の構築に向けて(答申)」と同心円

◎ 科学技術・学術審議会 学術分科会
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)
— 変革する大学にあって求められる大学図書館像 —

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
(3) 大学図書館に求められる機能・役割

① 学習支援及び教育活動への直接の関与

2. 大学図書館職員の育成・確保

(2) 大学図書館員に求められる資質・能力等

① 大学図書館職員としての専門性

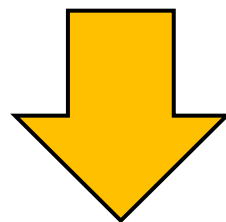
② 学習支援における専門性

③ 教育への関与における専門性

④ 研究支援における専門性

学術情報リテラシー教育を 学習支援の視点から捉える

○コンピュータ利用，情報探索・情報検索に関わるスキル
情報を入手するには，入手するためのツール(道具)をよく知り，
その使い方を学ぶことである。



○ツールスキルから学習スキル/アカデミックスキルへ
上記に加え，入手した情報・資料の可用性を検討したり，批判的に読み解き分析して，具体的な知的成果物を創造する
プロセス全体に亘るもの(=問題解決能力)をプログラム化

「知ること」と「行うこと」の融合

情報リテラシー教育において、しばしば「根拠・出典の提示が大切」などと言われるが、そもそもいかなるものが根拠たりえるか、というところから、丁寧な説明・理解がなされるべきではないだろうか。

野末俊比古. 「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって. 情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.



新しい教育手法の登場

学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法(アクティブ・ラーニング)を重視し,例えば,学生参加型授業,協調・協同学習,課題解決・探求学習,PBL (Problem/Project Based Learning)などを取り入れる。大学の実情に応じ,社会奉仕体験活動,サービス・ラーニング,フィールドワーク,インターンシップ,海外体験学習や短期留学等の体験活動を効果的に実施する。学外の体験活動についても,教育の質を確保するよう,大学の責任の下で実施する。

II.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

アクティブラーニングの手法を 学術情報リテラシー教育に取り込めるか

何が必要なのか？



新しい教育・学習支援の手法（協調学習等）の理解

教員がどのような授業を展開
したいか理解でき、支援の方法
が想起できる（授業の支援）

学生が授業を材料にどう主体的
に学べばよいかを指導できる
（授業外学習の支援）



単位の実質化，授業外学習の質の転換，授業改善

II.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

欧米と日本の学習支援スタッフの違い

学習支援に必要な能力

- ▶ 支援するひとが、インストラクショナル・デザインや学習環境理論を知っている。
- ▶ 教授法・教育手法をはじめ、学習理論＝「人はどう学ぶのか」を学んでいる。

※ジグソーメソッド、アンカードインストラクション、
正統的周辺参加、認知的徒弟制ほか

上記のことに基づいた企画，立案，開発，運営



II.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

Blended Librarian, Embedded Librarian(に学ぶ

▶ Blended Librarian :

図書館スキルをIT技術, 授業設計技術, 教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員

The Blended Librarian.

<http://crln.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf> (参照 2011-06-06)

▶ Embedded Librarian:

図書館を離れ, 利用者が活動している場から, 利用者と活動とともにしつつ情報サービスを提供している図書館員

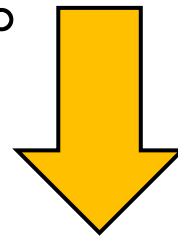
鎌田均. 「エンベディッド・ライブラリアン」: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.

ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき, 情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを, 学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。



学習（学ぶ）とは何か

- ▶ 日々得る情報を批判的に摂取し、新しい知識を創るために、頭の中の思考のスキーマ、インデクスを更新し、知識を再定義・再構成するプロセスそのもの。



Fabulous!!

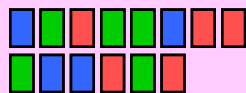
エルゼビアサイエンス ライブラリ・コネクトセミナー
「情報リテラシー教育」(2009. 12)



II. 教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

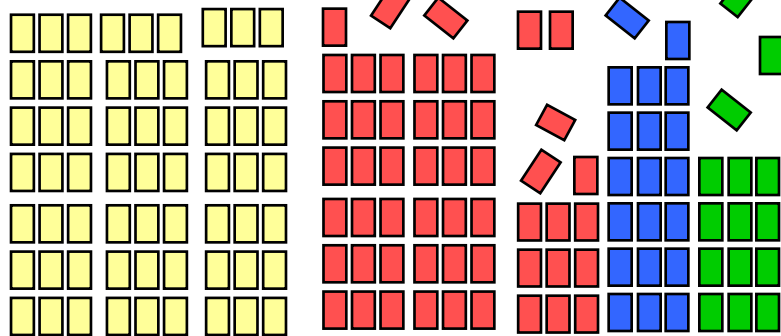
学習（学ぶ）とは何か ≡ 情報リテラシー

データ読み込み



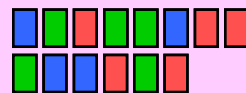
決められた構成定義（スキーマ）
どおりインデクス化

インデクス形成



データベース

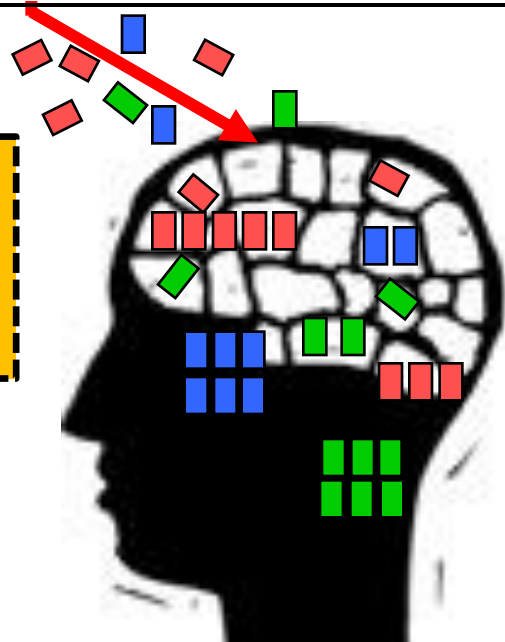
情報取得



- ① その都度その都度,
- ② 構成定義（スキーマ）を再定義し、
インデクスの再編成を行う



スキーマ：
情報の関係づけ
意味づけ
整理方法



頭の中の認識データベース

II. 教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

学習科学・学習理論を理解するために

連載 5分でわかる学習理論講座 (全11回). Beating (メールマガジン).
2005, no.11 - 2006, no.22.

<http://www.beatiii.jp/beating/index.html> (参照 2012-01-20)

※連載内で紹介されている文献すべて

中原淳, 金井壽宏. リフレクティブ・マネージャー：一流は常に内省する. 光文社. 2009

井上真琴. “大学図書館の学習支援”. 平成23年度大学図書館職員長期研修配付資料. 2011. <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2011/17.pdf> (参照 2011-10-4).

井上真琴. なぜ, ラーニング・コモンズが注目されるのか. 私立大学図書館協会会報. 2011, vol.135, p.73-87.

井上真琴. FDとの接点から図書館を視る. 丸善ライブラリーニュース. 2009, no.7・8, p12-13. http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/backnumber20091110.html (参照 2011-09-26).

